



Challenge the status quo

インフラの既成概念に挑むこと。そこから、世界はもっと自由になる。

私たちインフロニアグループは、インフラという人々の生活の基盤を支えています。ひとたび何かが起これば、甚大な被害や影響につながる身近な存在でありながらも、それが安全で品質を保っているときは当たり前にあるものと思われ、その意義やイメージがつかみにくい存在、そんなインフラを事業領域としています。

私たちが目指す未来「どこまでも、インフラサービスの自由が広がる世界。」は、一個人、一事業、一企業、一自治体、一国で短期間でつくられるものではありません。今、インフラは様々な社会課題に直面し、新築はもちろんのこと、維持運営・更新さえも困難な状況になり、当たり前の生活が揺らぎ始めています。

だからこそ、私たちは1世紀以上培ってきた技術力・ノウハウを集結し、ホールディングス体制に移行するとともに、共創パートナーの皆様と、その課題解決のための取り組みを加速させています。

当社グループが目指す未来をこの統合報告書で示すとともに、少しでも多くの方々に共感いただき、社会課題解決に向け、共に取り組んでいただきたいと願っています。

インフロニア・ホールディングス株式会社
取締役 代表執行役社長 兼 CEO

岐部 一誠

イントロダクション P.1
 ブランドスローガン・編集方針 P.1
 インフロニア・ホールディングスについて P.3

Chapter 1 **トップメッセージ** P.5

特集 **社外取締役座談会** P.11

Chapter 2 **価値創造ストーリー** P.15
 インフラを取り巻く社会課題 P.15
 価値創造プロセス P.17
 マテリアリティ・KPI P.19

Chapter 3 **ビジネスモデル** P.23
 インフロニアグループの3つのビジネスモデル P.23
 インフロニアグループの競争優位性 P.26
 成長を支える6つの事業基盤 P.27
 ステークホルダーとの対話 P.29

Chapter 4 **成長戦略** P.31
 財務戦略 P.31
 財務担当役員メッセージ P.33
 中長期経営計画の概要と進捗 P.35
 前田建設工業トップメッセージ P.37
 前田道路トップメッセージ P.38
 前田製作所トップメッセージ P.39
 シナジートピックス P.40
 日本風力開発トップメッセージ P.41
 日本風力開発事業紹介 P.43
 インフロニアグループの事業紹介 P.45
 事業紹介 土木事業 P.47
 事業紹介 建築事業 P.49
 事業紹介 インフラ運営事業 P.51
 事業紹介 舗装事業 P.53
 事業紹介 機械事業 P.55
 事業紹介 主要関連事業 P.57
 成長を加速させるドライバー〈IT・DX戦略〉 P.59

Chapter 5 **サステナビリティ** P.61
 サステナビリティ戦略 P.61
 サステナビリティステートメント P.63
 ガバナンス P.65
 環境 P.69
 社会 P.73

Chapter 6 **コーポレートデータ** P.77
 財務諸表 P.77
 財務・非財務ハイライト P.78
 5カ年財務サマリー P.79
 5カ年非財務サマリー P.81
 会社概要及び株式関連情報 P.83
 編集後記・用語集 P.84

編集方針
 インフロニアでは、本統合報告書をステークホルダーの皆様と当社の重要なコミュニケーションツールであるとともに、ステークホルダーの皆様同士のコミュニケーションツールと位置付けています。本統合報告書を通じて、当社の持続的な価値創造プロセスと地域・社会への価値提供についてご理解いただき、ステークホルダーエンゲージメントを積み上げ、社会・企業価値向上に寄与することを目指しています。具体的には、①インフラを取り巻く喫緊の社会課題、②その解決に向けた当社グループの考えと取り組み(ビジネスモデル)、③それによって実現される未来(VISION)について、全てのステークホルダーの皆様のご理解につなげ、共感を得ること、さらには「ともに、インフラの未来に挑む」ステークホルダーの関係性強化と獲得を目的としています。今回の統合報告書では、2024年1月に当社グループへ加わった日本風力開発を含めたグループシナジーについて、成長戦略と紐づけて掲載しています。また、各セグメントの説明を充実させることにより、当社グループが新たな価値創造にむけてどのような戦略を実行しているかご説明しています。その他、2050年を目指す姿やそれに向けた取り組み方針をサステナビリティ戦略、サステナビリティステートメントで示しています。

対象期間:2023年4月1日-2024年3月31日の当社グループの活動を対象としていますが、一部、それ以前からの取り組みや直近の活動も含みます。本統合報告書に掲載しているグラフや表は、別途記載がない限り「2024年3月末現在」および「2023年度」の情報を報告しています。

参考ガイドライン:国際会計基準(IFRS)財団「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省「価値協創ガイダンス」、GRIスタンダード、ISO26000



表紙に込めた想い
 当社グループが総合インフラサービス企業を目指す道において、グループ各社が力を合わせて進み、様々なパートナーと協力しながら新たな価値を創造し、共に未来へと歩む決意を示しています。

インフロニア・ホールディングスは、
 インフラとインフラサービスの社会課題解決に向け、
 日本初の「総合インフラサービス企業」として挑み続けます。

INFRONEER Holdings Inc. 2021年設立

<p>前田建設工業 (MK) 1919年創業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土木事業 ・建築事業 ・インフラ運営事業 	<p>前田道路 (MD) 1930年設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舗装事業 	<p>前田製作所 (MS) 1962年創業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械事業 	<p>日本風力開発 (JWD) 1999年設立 2024年1月グループ入り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ運営事業
---	---	--	--

従来より「請負」を主体とする経営を行ってきた建設業界は、幾度となく景気の波に翻弄され、厳しい試練を乗り越えてきました。現在の日本社会・経済の構造は日々変化し、不確実で先行き不透明な時代へ突入しています。

さらに、私たちが支えるインフラは、多くの地域で安全性や快適性を揺るがしかねない重要な課題を抱えています。

インフラを取り巻く社会課題に対して提示できる解決策として、再生可能エネルギー事業や官民連携の手法によるインフラの整備・更新などのインフラビジネスに見出し、2011年に「脱請負」を掲げて、インフラを核とした事業の上下流へ事業領域を拡大、強化する新たなビジネスに挑戦し始めました。

また、将来にわたりグループが持続的に成長し、社会への価値創出を実現するためには「請負」での利益確保に加え、安定した

収益基盤を築く必要があります。これまで培ってきた「請負」のエンジニアリング力と「脱請負」の新たなインフラサービスを融合し、「総合インフラサービス企業」として新たなビジネスモデルの実現を目指しています。

従来の建設業の枠を超え、グローバルに通用する新しい企業グループをつくり上げるため、2021年にインフロニア・ホールディングスを共同持株会社とし、前田建設工業、前田道路、前田製作所を事業会社とするホールディングス体制に移行しました。2024年1月には日本風力開発がグループに加わり、サステナブルな事業を拡大し未来を切り拓く準備を整えています。

インフロニアグループは、変化し続ける社会において、創造力を結集し、より良い社会を実現するために、積極的にリーダーシップを発揮し、私たちが目指す未来「どこまでも、インフラサービスの自由が広がる世界。」を実現します。

「総合インフラサービス企業」実現のカギとなる『脱請負』が意味すること

脱請負、すなわち「請負を脱する」という言葉には、従来の請負事業だけでなく、事業者としてプロジェクトのリスクを取るという意味が込められています。具体的には、空港や上下水道、有料道路のような公共インフラの運営権を取得し、建設、運営、維持管理を手がけるコンセッション事業や、事業開発・建設から維持管理運営、売却までの事業投資を行う再生可能エネルギー事業などのビジネスを意味しています。

請負事業で長年培ったエンジニアリング力と共に、金融ノウハウを活用することで、リスクを最小化し、大きなリターンを生み出すことを可能にしています。

▶ 請負×脱請負についてはP.23をご覧ください

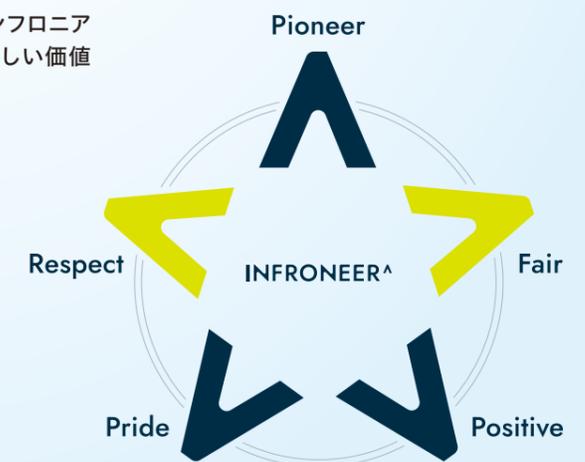
私たちが目指す未来

「どこまでも、インフラサービスの自由が広がる世界。」の実現に向けて以下の理念、行動規範を定めています。



INFRONEER ^ (インフロニア・キャレット)は、私たちインフロニアパーソンのもつ多様な強みの累乗(キャレット)による、新しい価値創造の源泉であり、大切にす道しるべです。

- Pioneer** 失敗してもいい。未知の領域へ、先陣をきろう。
- Respect** ぶつかってもいい。互いを認め、信頼を築こう。
- Pride** 胸を張っていい。技術と知識を誇りにしよう。
- Positive** 無駄な経験なんてない。どんなことも成長の糧にしよう。
- Fair** 自己のためだけではない。地域と社会視点で判断しよう。



イントロダクション
 トップメッセージ
 「特集」社外取締役座談会
 価値創造ストーリー
 ビジネスモデル
 成長戦略
 サステナビリティ
 コーポレートデータ